

別紙1

伊東市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン改訂案 修正意見

頁	諮問案	意見内容	修正意見
8	第2章 本市の人口動向 2 自然増減（出生・死亡の状況）の推移 （1）出生・死亡数の推移 出生数は年により増減はあるものの、ここ数年はおおむね 300 人前後で推移しています。	▶平成 25 年以降、確実に減少傾向にあるので、現状を踏まえた表記に変更した方がよい。	出生数は、 <u>長期にわたる少子化により年々減少傾向にあり、ここ数年は 300 人程度となっています。</u> (下線部変更)
18	第2章 本市の人口動向 4 人口動態（自然増減及び社会増減）のまとめ 「総人口の推移に与えてきた自然増減と社会増減の影響」のグラフ中の <u>自然減・社会増</u>	▶グラフの内容と不一致	<u>自然増・社会増</u> (下線部変更)
29	第4章 本市の将来展望 1 現状と課題 （1）自然増減の状況 本市の自然増減の状況を見ると、近年の出生数がほぼ横ばいなのに対して、…	▶平成 25 年以降、確実に減少傾向にあるので、現状を踏まえた表記に変更した方がよい。	本市の自然増減の状況を見ると、 <u>長期にわたる少子化に加えて、…</u> (下線部変更)

頁	諮問案	意見内容	修正意見
30	<p>第4章 本市の将来展望</p> <p>2 目指すべき将来の方向</p> <p>◎65歳までを対象とした積極的な移住定住促進により、純移動率を上昇させ、ずっと住みたいと思う環境づくりを目指します。</p> <p>65歳までを対象とした移住促進を図ることにより、年齢構成のバランスを維持し、持続可能な地域の実現を目指します。</p> <p>第五次総合計画の目標人口（令和12年60,000人）を達成するとともに、令和42（2060）年に人口36,000人を確保します。</p>	<p>▶第五次総合計画基本構想の表記と揃えた方がよい。</p> <p>▶社会増減に関する目標だけでなく、自然増減に関する目標についても、記載した方がよい。</p> <p>▶人口問題解決に向けた強い意思表示として、より積極的な人口の目標設定を行った方がよい。</p>	<p>2 目指すべき将来の方向</p> <p><u>(1) 65歳までを対象とした積極的な移住定住促進により、純移動率を上昇させ、住んでいたいと思う環境づくりを目指します。</u></p> <p>65歳までを対象とした移住促進を図ることにより、年齢構成のバランスを維持し、持続可能な地域の実現を目指します。</p> <p><u>(2) 本市の将来を担う子どもを安心して産み育てることのできる環境づくりを目指します。</u></p> <p>第五次総合計画の目標人口（令和12年60,000人）を達成するとともに、令和42（2060）年に人口36,600人を確保します。</p> <p style="text-align: right;">（下線部変更・追加）</p>

別紙2

伊東市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン改訂案 付帯意見

頁	指摘箇所	意見内容
7	第2章 本市の人口動向 1 人口の推移 (4) 地区別総人口の推移	対島圏域の人口が増加している理由を移住者から意見聴取すること等により、どのようなまちづくりが求められているか、また、伊東市の人口増加への可能性を見出すことができることも期待されるので、検証していただきたい。
12	第2章 本市の人口動向 3 社会増減（転入・転出の状況）の推移 (2) 性別・年齢階級別の人口移動の推移 …高校卒業後の進学、就職等で市外に転出している状況が伺えます。	新型コロナウイルス感染症の影響により、働き方の考え方が変わり、テレワークで仕事をする人が増えていくと思われることから、空家問題も含め、移住を希望する方への積極的な相談窓口を設置していただきたい。

頁	指摘箇所	意見内容
30	第4章 本市の将来展望 2 目指すべき将来の方向	<p>移住による人口増加だけではなく、伊東市で生まれ育って成長していく子どもたちを増やしていく視点が、人口ビジョンとしては不可欠であると考えている。子どもを産みやすい環境づくりを進め、出生数の増加を目指していただきたい。</p> <p>また、ベンチャー企業等の誘致は、空家問題解決にもつながることから、取組を進めていただきたい。</p>